

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組 織 名	むつ市大畑地区地域水産業再生委員会
代 表 者 名	会長 田高利美
再生委員会の構成員	大畑町漁業協同組合、中型イカ釣り漁業者、小型イカ釣り漁業者、小型定置網漁業者、底建網漁業者、むつ市大畑庁舎産業建設課、青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所
オブザーバー	—
対象となる地域の範囲及び漁業の種類	地域：青森県むつ市大畑地区 漁業の種類：中型イカ釣り漁船漁業：8経営体、小型イカ釣り漁船漁業：65経営体、小型定置網漁業(外海養殖業兼業)：3経営体、底建網漁業(ナマコ漁業兼業)：8経営体

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区は、三方を海に囲まれた下北半島にあって、津軽海峡に面した北辺に位置し、イカ釣り漁業、小型定置網漁業、底建網漁業などが主体的に営まれている。

中型イカ釣り及び小型イカ釣り漁船漁業においては、近年、海水温の上昇や潮流の変化に起因すると思われるスルメイカ漁の不振が著しく、漁獲量が急激に減少している。さらに、漁獲努力量が増えることで、燃油経費が増加するなど悪循環に陥っている。また、厳しい就労環境による漁業就業者の不足から船員や後継者の確保が困難となっており、就業者確保への取組が必要となっているなど、当地域のイカ釣り漁業を取り巻く環境はより一層厳しさを増している。かつて全国有数の水揚げを誇り、地域経済を根底から支えてきたスルメイカ漁の不振は、地域全体の低迷にも繋がっている。この小型定置網漁業、底建網漁業では、前述の海水温や潮流の影響から、操業が安定せず、網の調整や修繕の頻度も著しく増加し、燃油経費や人件費の増大が経営を圧迫している。

## (2) その他の関連する現状等

当地域は漁業への依存度が高く、特にスルメイカの漁獲が多かったことから、かつてはスルメイカを原料とする水産加工会社が多く集積し、一次加工品の全国シェアが50%以上を占めていた。しかし、輸入品の流通や消費者ニーズの多様化に伴い現在では、その多くが破綻し、生産額は最盛期の1/10程度にまで落ち込んでいる。

船舶整備関連産業や飲食業は、地元漁船漁業者の減少と入港する外来船の減少により衰退している。

また、イカに特化した漁業からの転換を図るために、20年以上前から取り組んでいるドナルドソン系ニジマス「海峡サーモン」の海中養殖は、ブランド化に成功し、作り育てる漁業の先駆けとして高く評価されている。

この地域の流通拠点である水産物流通荷捌施設(大畑町魚市場)は、老朽化による機能低下が著しく、持続可能な水産業の推進を図るため更新整備を進めているところである。

## 3 活性化の取組方針

## (1) 基本方針

地域の基幹産業である漁業を維持していくため、大畑地区の主力である中型イカ釣り及び小型イカ釣り漁船漁業並びに小型定置網漁業、底建網漁業の振興を図るとともに、効率的で安定的な漁業経営が行われるよう、次の活動に取組み地域の活性化を図る。

- むつ市が整備を進めている衛生管理型水産物流通荷捌施設、海水処理施設等を十分に活用する等、漁獲物の高付加価値化を目指す。(中型イカ釣り漁船漁業、小型イカ釣り漁船漁業、小型定置網漁業、底建網漁業)
- 漁業経費の中で割合の高い漁業用燃料経費の削減を図り、効率的で安定的な漁業経営を目指す。(中型イカ釣り漁船漁業、小型イカ釣り漁船漁業、小型定置網漁業、底建網漁業)
- 水産資源の増殖と適正な管理・保護を推進することで持続可能な漁業の構築を目指す。(小型定置網漁業、底建網漁業)
- 魚食文化の伝承と普及を通じた販売促進活動を推進し漁業収入の向上を目指す。(中型イカ釣り漁船漁業、小型イカ釣り漁船漁業、小型定置網漁業、底建網漁業)

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業協同組合の共同漁業権行使規則及び行使計画により、漁業期間、漁業の方法、漁獲サイズ等を制限しているほか、県資源管理指針に基づく資源管理計画を策定し、休漁日を設定するなど資源保護に努めている。

(3) 具体的な取組内容

1年目(平成26年度)

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>1)水産物の付加価値向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中型イカ釣り漁船漁業者は、一尾凍結用トレー設備の導入を通じて、これまでブロック凍結していたイカのうち生食用イカについては段階的(H26年度は5t)に凍結むらができにくいIQF(一尾凍結 Individual Quick Frozen)に切り替えていくことで、魚価向上により0.1%の所得向上を目指す。</li> <li>・小型イカ釣り漁船漁業者、小型定置網漁業者、底建網漁業者は、むつ市に対し、市が実施している衛生管理型水産物流通荷捌施設・海水処理施設の整備促進を要請するとともに、同施設の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた意識の醸成を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を通じて、以下の活動に取り組む。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①小型いか釣り漁業者は、高付加価値化に向けて、漁獲物の迅速な箱詰め(迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理(5℃以下)を含む)による鮮度保持の徹底に取り組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱にシートを被せ保冷性を高めるよう努める。</li> <li>②小型定置網漁業者は、サクラマス高付加価値化に向けた技術習得のため船上活〆実証試験に取り組む。</li> <li>③底建網漁業者は、活魚出荷量を増加させるため、魚槽内の水質(酸素濃度(5mg/l以上)、水温(高水温期20℃以下))や魚槽に収容する活魚の選別(活力、傷等)、収容密度を徹底管理する。</li> </ul> </li> </ul> <p>2)つくり育てる漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型定置網漁業者は、漁具固定技術が確立されたことを受けて、外海養殖施設を設置し、青森県むつ水産事務所等の技術指導の下、天然ホヤから人工採苗を行い、延縄垂下方式によるホヤ養殖試験を実施する。</li> <li>・底建網漁業者は、漁港区域内海底にホタテガイ貝殻を敷設し、ナマコ増殖場の造成を行う。また、増殖した漁場の状況や発生した稚ナマコの成育具合を底見等で確認するとともに、カニ類などの害敵駆除を行う他、採捕するナマコについて100g以下は再放流し、漁場・資源管理を徹底する。</li> </ul> <p>3)魚食文化の伝承と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業協同組合は、むつ市とともに水産物の販売戦略を立て、全漁業者は、その販売戦略に基づき、一尾凍結イカや高付加価値化した水産物を各種団体のイベント等で試食販売することにより販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、各種団体が主催するイベントを通して魚食をPRするとともに、高校生を対象とした食育活動を推進することで水産物販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、高校生を対象とした地曳き網体験により魚と直にふれあう機会を提供し、漁業への理解を深めてもらうことで水産物販売促進を図る。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>1)省燃油に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を低減するとともに、中型イカ釣り漁船漁業者は、5%の減速走行に努めることで17%の消費燃料削減により25.1%の所得向上を、小型イカ釣り漁船漁業者は5%の減速航行に努めることで12%の消費燃料削減により11.4%の所得向上を、小型定置網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により1.6%の所得向上を、底建網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により6.3%の所得向上を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地水産業強化支援事業</li> <li>・省燃油活動推進事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・被災海域種苗放流支援事業</li> </ul>

2年目(平成27年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1)水産物の付加価値向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中型イカ釣り漁船漁業者は、一尾凍結用トレー設備の導入を通じて、これまでブロック凍結していたイカのうち生食用イカについては段階的(H27年度は8t)に凍結むらができにくいIQF(一尾凍結 Individual Quick Frozen)に切り替えていくことで、魚価向上により0.1%の所得向上を目指す。</li> <li>・小型イカ釣り漁船漁業者、小型定置網漁業者、底建網漁業者は、むつ市に対し、市が実施している衛生管理型水産物流通荷捌施設・海水処理施設の整備促進を要請するとともに、同施設の機能を十分に活用するために、漁業協同組合等が開催する高付加価値化に向けた知識と技術の習得を目的とした衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を通じて、以下の活動に取り組む。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①小型いか釣り漁業者は、高付加価値化に向けて、漁獲物の迅速な箱詰め(迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理(5℃以下)を含む)による鮮度保持の徹底に取り組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱にシートを被せ保冷性を高めるよう努める。</li> <li>②小型定置網漁業者は、サクラマスを段階的(H27年度は0.7t)に船上活〆を実施することで高付加価値化を図り、0.1%の所得向上を目指す。</li> <li>③底建網漁業者は、活魚出荷量を増加させるため、魚槽内の水質(酸素濃度(5mg/l以上)、水温(高水温期20℃以下))や魚槽に収容する活魚の選別(活力、傷等)、収容密度を徹底管理する。</li> </ul> </li> </ul> <p>2)つくり育てる漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型定置網漁業者は、漁具固定技術が確立されたことを受けて、外海養殖施設を設置し、青森県むつ水産事務所等の技術指導の下、天然ホヤから人工採苗を行い、延縄垂下方式によるホヤ養殖試験を実施する。</li> <li>・底建網漁業者は、漁港区域内海底にホタテガイ貝殻を敷設し、ナマコ増殖場の造成を行う。また、増殖した漁場の状況や発生した稚ナマコの成育具合を底見等で確認するとともに、カニ類などの害敵駆除を行う他、採捕するナマコについて100g以下は再放流し、漁場・資源管理を徹底する。</li> </ul> <p>3)魚食文化の伝承と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、漁業協同組合とむつ市が立てる販売戦略に基づき、一尾凍結イカや高付加価値化した水産物を各種団体のイベント等で試食販売することにより販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、各種団体が主催するイベントを通して魚食をPRするとともに、小中学生を対象とした食育活動を推進することで水産物販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、小中学生を対象とした地曳き網体験により魚と直にふれあう機会を提供し、漁業への理解を深めてもらうことで水産物販売促進を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1)省燃油に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を低減するとともに、中型イカ釣り漁船漁業者は、5%の減速走行に努めることで17%の消費燃料削減により25.1%の所得向上を、小型イカ釣り漁船漁業者は5%の減速航行に努めることで12%の消費燃料削減により11.4%の所得向上を、小型定置網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により1.6%の所得向上を、底建網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により6.3%の所得向上を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地水産業強化支援事業</li> <li>・省燃油活動推進事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・被災海域種苗放流支援事業</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1)水産物の付加価値向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中型イカ釣り漁船漁業者は、一尾凍結用トレー設備の導入を通じて、これまでブロック凍結していたイカのうち生食用イカについては段階的(H28年度は10t)に凍結むらができにくいIQF(一尾凍結 Individual Quick Frozen)に切り替えていくことで、魚価向上により0.1%の所得向上を目指す。</li> <li>・小型イカ釣り漁船漁業者、小型定置網漁業者、底建網漁業者は、むつ市に対し、市が実施している衛生管理型水産物流通荷捌施設・海水処理施設の整備促進を要請するとともに、同施設の機能を十分に活用するために、高付加価値化に向けてこれまでに習得した知識や技術の最終確認を行い、漁業協同組合とともにシミュレーションを行う。また、さらなる技術の向上を目指し、漁業協同組合等が開催する高付加価値化のための衛生管理講習会や鮮度保持講習会等を通じて、以下の活動に取り組む。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①小型イカ釣り漁業者は、高付加価値化に向けて、漁獲物の迅速な箱詰め(迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理(5℃以下)を含む)による鮮度保持の徹底に取り組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱にシートを被せ保冷性を高めるよう努める。</li> <li>②小型定置網漁業者は、サクラマスを段階的(H28年度は1.5t)に船上活〆を実施することで高付加価値化を図り、0.2%の所得向上を目指す。</li> <li>③底建網漁業者は、活魚出荷量を増加させるため、魚槽内の水質(酸素濃度(5mg/l以上)、水温(高水温期20℃以下))や魚槽に収容する活魚の選別(活力、傷等)、収容密度を徹底管理する。</li> </ul> </li> </ul> <p>2)つくり育てる漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型定置網漁業者は、漁具固定技術が確立されたことを受けて、青森県むつ水産事務所等の技術指導の下、天然ホヤから人工採苗を行い、延縄垂下方式によるホヤ養殖試験を実施する。また、25年度試験養殖分の採捕により6.5%の所得向上を目指す。</li> <li>・底建網漁業者は、増殖したナマコ漁場の状況や発生した稚ナマコの成育具合を底見等で確認するとともに、カニ類などの害敵駆除を行う他、採捕するナマコについて100g以下は再放流し、漁場・資源管理を徹底することで資源量増により0.4%の所得向上を目指す。</li> </ul> <p>3)魚食文化の伝承と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、漁業協同組合とむつ市が立てる販売戦略に基づき、一尾凍結イカや高付加価値化した水産物を各種団体のイベント等で試食販売することにより販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、各種団体が主催するイベントを通して魚食をPRするとともに、小中学生を対象とした食育活動を推進することで水産物販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、小中学生を対象とした地曳き網体験により魚と直にふれあう機会を提供し、漁業への理解を深めてもらうことで水産物販売促進を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1)省燃油に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を低減するとともに、中型イカ釣り漁船漁業者は、5%の減速走行に努めることで17%の消費燃料削減により25.1%の所得向上を、小型イカ釣り漁船漁業者は5%の減速航行に努めることで12%の消費燃料削減により11.4%の所得向上を、小型定置網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により1.6%の所得向上を、底建網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により6.3%の所得向上を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地水産業強化支援事業</li> </ul>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1)水産物の付加価値向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中型イカ釣り漁船漁業者は、一尾凍結用トレー設備の導入を通じて、これまでブロック凍結していたイカのうち生食用イカについては段階的(H29年度は14t)に凍結むらができにくいIQF(一尾凍結 Individual Quick Frozen)に切り替えていくことで、魚価向上により0.2%の所得向上を目指す。</li> <li>・小型イカ釣り漁船漁業者、小型定置網漁業者、底建網漁業者は、むつ市が整備した衛生管理型水産物流通荷捌施設・海水処理施設の低温管理機能、密閉機能、海水殺菌装置等の機能を十分に活用し、効率的に利用するために、引き続き、漁業協同組合等が実施する研修に参加し、その技術を高めるとともに、以下の活動に取り組む。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①小型いか釣り漁業者は、高付加価値化に向けて、漁獲物の迅速な箱詰め(迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理(5℃以下)を含む)による鮮度保持の徹底に取り組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱にシートを被せ保冷性を高めるよう努める。さらに、水産物流通荷捌施設内の低温管理機能と殺菌海水を活用することで、衛生管理・鮮度管理を徹底し、スルメイカ鮮魚の高付加価値化を図り4.2%の所得向上を目指す。</li> <li>②小型定置網漁業者は、サクラマスを段階的(H29年度は2t)に船上活メを実施することで高付加価値化を図り、0.2%の所得向上を目指す。さらに海水処理施設から供給される海水シャーベットを船上で活用することにより従来のサクラマスとの差別化を図り、ブランド化を目指す。</li> <li>③底建網漁業者は、活魚出荷量を増加させるため、魚槽内の水質(酸素濃度(5mg/l以上)、水温(高水温期20℃以下))や魚槽に収容する活魚の選別(活力、傷等)、収容密度を徹底管理する。さらに、水産物流通荷捌施設内の低温管理機能(5℃)と殺菌海水を活用することで、平目鮮魚の20%を活魚として取り扱うとともに、斃死減により3.8%の所得向上を目指す。</li> </ul> </li> </ul> <p>2)つくり育てる漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型定置網漁業者は、これまでの試験成果を活かしホヤ養殖を進め、26年度試験養殖分の採捕により13.0%の所得向上を目指す。</li> <li>・底建網漁業者は、増殖したナマコ漁場の状況や発生した稚ナマコの成育具合を底見等で確認するとともに、カニ類などの害敵駆除を行う他、採捕するナマコについて100g以下は再放流し、漁場・資源管理を徹底することで資源量増により0.9%の所得向上を目指す。</li> </ul> <p>3)魚食文化の伝承と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、漁業協同組合とむつ市が立てる販売戦略に基づき、一尾凍結イカや高付加価値化した水産物を各種団体のイベント等で試食販売することにより販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、各種団体が主催するイベントを通して魚食をPRするとともに、小中学生を対象とした食育活動を推進することで水産物販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、小中学生を対象とした地曳き網体験により魚と直にふれあう機会を提供し、漁業への理解を深めてもらうことで水産物販売促進を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1)省燃油に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を低減するとともに、中型イカ釣り漁船漁業者は、5%の減速走行に努めることで17%の消費燃料削減により25.1%の所得向上を、小型イカ釣り漁船漁業者は5%の減速航行に努めることで12%の消費燃料削減により11.4%の所得向上を、小型定置網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により1.6%の所得向上を、底建網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により6.3%の所得向上を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	

5年目(平成30年度)

取組の最終年度であり、前年度に引き続き行いが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1)水産物の付加価値向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中型イカ釣り漁船漁業者は、一尾凍結用トレー設備の導入を通じて、これまでブロック凍結していたイカのうち生食用イカについては段階的(H30年度は16t)に凍結むらができにくいIQF(一尾凍結 Individual Quick Frozen)に切り替えていくことで、魚価向上により0.2%の所得向上を目指す。</li> <li>・小型イカ釣り漁船漁業者、小型定置網漁業者、底建網漁業者は、むつ市が整備した衛生管理型水産物流通荷捌施設・海水処理施設の低温管理機能、密閉機能、海水殺菌装置等の機能を十分に活用し、効率的に利用するために、引き続き、漁業協同組合等が実施する研修に参加し、その技術を高めるとともに、以下の活動に取り組む。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①小型いか釣り漁業者は、高付加価値化に向けて、漁獲物の迅速な箱詰め(迅速な施水作業と出荷時期に応じた施水量の調整による低温管理(5℃以下)を含む)による鮮度保持の徹底に取り組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱にシートを被せ保冷性を高めるよう努める。さらに、水産物流通荷捌施設内の低温管理機能と殺菌海水を活用することで、衛生管理・鮮度管理を徹底し、スルメイカ鮮魚の高付加価値化を図り4.2%の所得向上を目指す。</li> <li>②小型定置網漁業者は、サクラマスを段階的(H30年度は2.5t)に船上活〆を実施することで高付加価値化を図り、0.3%の所得向上を目指す。さらに海水処理施設から供給される海水シャーベットの船上で活用することにより従来のサクラマスとの差別化を図り、ブランド化を目指す。</li> <li>③底建網漁業者は、活魚出荷量を増加させるため、魚槽内の水質(酸素濃度(5mg/l以上)、水温(高水温期20℃以下))や魚槽に収容する活魚の選別(活力、傷等)、収容密度を徹底管理する。さらに、水産物流通荷捌施設内の低温管理機能(5℃)と殺菌海水を活用することで、平目鮮魚の20%を活魚として取り扱うとともに、斃死減により3.8%の所得向上を目指す。</li> </ul> </li> </ul> <p>2)つくり育てる漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型定置網漁業者は、これまでの試験成果を活かしホヤ養殖を進め、27年度試験養殖分の採捕により13.0%の所得向上を目指す。</li> <li>・底建網漁業者は、増殖したナマコ漁場の状況や発生した稚ナマコの成育具合を底見等で確認するとともに、カニ類などの害敵駆除を行う他、採捕するナマコについて100g以下は再放流し、漁場・資源管理を徹底することで資源量増により0.9%の所得向上を目指す。</li> </ul> <p>3)魚食文化の伝承と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、漁業協同組合とむつ市が立てる販売戦略に基づき、一尾凍結イカや高付加価値化した水産物を各種団体のイベント等で試食販売することにより販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、各種団体が主催するイベントを通して魚食をPRするとともに、小中学生を対象とした食育活動を推進することで水産物販売促進を図る。</li> <li>・底建網漁業者及び小型定置網漁業者は、小中学生を対象とした地曳き網体験により魚と直にふれあう機会を提供し、漁業への理解を深めてもらうことで水産物販売促進を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1)省燃油に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を低減するとともに、中型イカ釣り漁船漁業者は、5%の減速走行に努めることで17%の消費燃料削減により25.1%の所得向上を、小型イカ釣り漁船漁業者は5%の減速航行に努めることで12%の消費燃料削減により11.4%の所得向上を、小型定置網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により1.6%の所得向上を、底建網漁業者は10%の減速航行に努めることで17%の消費燃料削減により6.3%の所得向上を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	

(4) 関連機構(機関)との連携

青森県水産振興課・漁港漁場整備課やむつ水産事務所、水産総合研究所、内水面研究所から指導を受け、各年度毎に、漁業所得の向上について、定量的に分析・評価を行う。また、問題点については原因を調査し、解決に向けた課題整理を行う。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の %向上 (中型イカ釣り漁船漁業)	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円
漁業所得の %向上 (小型イカ釣り漁船漁業)	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円
漁業所得の %向上 (小型定置網漁業)	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円
漁業所得の %向上 (底建網漁業)	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	消費燃料の削減(漁船船底洗浄及び減速航行)
産地水産業強化支援事業	水産物流通荷捌き施設・海水処理施設整備及び衛生管理・鮮度管理講習会・効率的な流通体制確立のための調査等
水産多面的機能発揮対策事業	魚食文化の伝承と普及
被災海域種苗放流支援事業	水産資源の増殖と適正な管理・保護の推進